

令和7年度 学校経営方針

校長 青木 晴彦

I 学校教育目標

探究心をもち 他者とかかわりながら 自らを高める中原っ子

VUCA（変化の激しい不安定な社会）の時代を生きる中原っ子が、答えのない課題に対し、多様な他者と共に支え合い・高め合いながら解決策を見出し、人生をよりよいものにしてほしいという願いを込めて、今年度より学校教育目標を変更した。

II めざす児童像

- 1 探究心をもちて学ぶ子（探究心・好奇心）【Challenge 粘り強さ】
 - （1）もっと知りたい、やってみたいという思いを持つ姿
 - （2）よくわからないことにも、方法を見つけて粘り強く取り組む姿
 - （3）失敗を恐れずチャレンジする姿
- 2 自分の思いを表現する子（表現力）【Concept 夢・目標】
 - （1）適切な言葉を選んで伝える姿
 - （2）自分の思いや考えを生き生きと伝える姿
 - （3）挨拶を大切にし、他者と関わろうとする姿
- 3 他者と協力しあう子（協働する力）【Communication 協働】
 - （1）他者の意見をよく聞いて話し合いを行う姿
 - （2）目標達成に向けて他者と協力する姿
 - （3）友達のよさや違いを認める姿
- 4 自分で考えて行動する子（主体性）【Control 主体性】
 - （1）目標や課題を自ら考える姿
 - （2）自分で判断して決定し、行動する姿
 - （3）当事者意識をもって行動する姿

III めざす学校像

1 明るく礼儀のある学校	（1）明るい挨拶が行き交う学校 （2）思いやりの気持ちが行き交う学校 （3）感謝の気持ちが行き交う学校 （4）温かい言葉が行き交う学校
2 一人一人の子どもが大切にされる学校	（1）子どもの夢を育む学校 （2）子どもの心を育む学校 （3）子どもが学びを求める学校 （4）子どもが元気に運動する学校
3 安全・安心で清潔な学校	（1）危機管理について、十分な配慮のある学校 （2）子どもの安全に対する配慮のある学校 （3）学びの場にふさわしい環境が整えられた学校 （4）登下校、下校後の生活への配慮のある学校
4 信頼される学校	（1）進んで情報発信に努める学校 （2）子ども、保護者、地域の声に耳を傾ける学校 （3）参観から参加へ、協力から協働へ向かう学校 （4）保護者との連絡を密にし、信頼で結ばれる学校

IV めざす教師像

- 1 子どもの将来を見据え、一人一人の良さを伸ばそうとする教師（使命感・責任感）
- 2 カウンセリングマインドをもって、丁寧な言葉で指導する教師（児童理解）
- 3 研究心や探究心をもち、自らを高めようと学び続ける教師（専門性の向上）
- 4 他学年や地域と協働する教師（協働する力・調整力）

V 経営の重点

1 中期目標（3年間目標の2年目）

めざす児童像の実現に向け、
地域（社会）と連携・協働した教育課程を創る

社会で役立つ資質・能力の育成のためには、教科書で学ぶだけでなく、地域や社会とのつながりから学ぶ必要がある。学校教育目標の実現に向け、昨年度と同様、資質・能力の育成を踏まえた地域や社会と連携・協働した教育課程を創ることを中期目標としている。（お膳立てされた体験ありきで終わることのないように。）

2 重点目標

よくわからないことにも、
方法を見つけて粘り強く取り組む児童の育成

昨年度は「生活科・総合的な学習の時間を軸とした教育課程を創る」を重点目標とした。児童の探究心を育むために、単元内容を見直しながら、地域と連携・協働した中原小ならではの教育課程を創ってきた。また、単元指導計画を用いながら、生活科・総合的な学習の時間の内容と他教科等の内容とを結びつけながら、学びを一体的に捉えた学習を進めることも行ってきた。

今年度は、「探究心をもって学ぶ子」の育成を他教科や特別活動等においても意識的に指導していきたい。具体的な姿の一つである「わからないこと、難しいこと、面倒なことにも、方法を見つけて粘り強く取り組む児童」は、本校児童の課題でもある。これを重点にし、達成感や自信につながる指導をめざしていきたい。

VI 具体的な取り組み

1 探究力を育む教育活動を創る

- （1）学習課題の明確化を図り、子どもたちが自ら問題を粘り強く追究・解決できるよう授業改善に取り組む。
- （2）問い（教師：発問，児童：疑問）を大切にし、対話を生み出す授業をつくる。
（教師は問をつなぐファシリテーターとなる。）
- （3）各教科等の学びを他教科や生活に活かす学びとなる授業を目指す。
（教科横断的な学び、振り返りを大切にした授業）
- （4）実感が伴った体験的な学びを重視し、地域（外部）人材や地域の環境を活用した授業を計画，実践する。（CS との協働プログラム）
- （5）学校図書館や ICT を積極的に活用し、読書力や情報活用能力を育む。
- （6）家庭との連携による読書活動（家読のすすめ）

2 児童が安心して学ぶための教育環境を創る

- （1）「学年内教科担任制（5・6年）」や「道徳学年内持ち回り授業（4・6年）」を導入し、担任外教職員との関わり等、複数の目で多面的に児童理解を図る。
- （2）温かい言葉が飛び交い、多様性を認め合う学級集団をつくる。
 - 教師の言動も大切な教育環境
 - 場に応じた言葉遣いの意識化

(3) 発達段階に即したキャリア教育の推進。

(自己肯定感の育成とキャリアパスポートの効果的な活用)

(4) 個のニーズに応じた学習指導と環境整備 (特別支援教育の推進)

(特別支援教育コーディネーターや通級指導教室担当者、教育相談担当者との連携)

(5) 教育相談活動の充実 (アンケートや相談ボックスを活用した教育相談)

(6) 情報モラル教育の推進。(情報を正しく安全に利用できるようにする。)

(7) 規範意識の醸成。(「中原小スタンダード」を基に、全校で取り組む。)

(8) 教師の危機管理意識の高揚と児童の危険回避能力の育成。

(9) 幼保こ小連携の強化と小中一貫教育の推進

○相互授業参観 ○協働研修 ○児童・生徒間の積極的な関わり

3 児童が進んで運動に親しむ教育活動を創る

(1) 教科体育の充実

○ゲストティーチャーやCSの積極的な活用

○遊・友スポーツランキングちばの活用

(2) 体力テスト結果の有効的活用

(3) けがの防止に向けた指導の充実 (養護教諭との連携)

(4) 食育の推進 (栄養士との連携)

学校教育目標達成に向けた合言葉



チャレンジ!